

ご協力いただいた乾癬の患者さんへ

研究報告 2021-2022

NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会



photo by Shinichi

3年間で2,065名の方にご協力いただきました

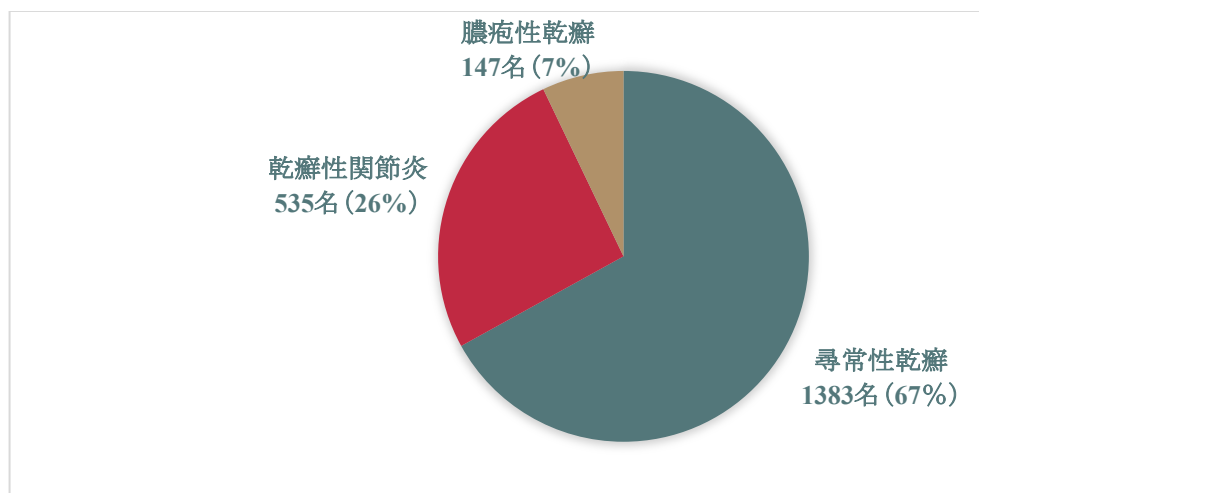
乾癬の患者さんを対象とした大規模調査は早くも3年目となりました。2021年12月までに延べ2,065名(2021年12月時点では1,394名)の方に参加していただきました。皆さんのご協力に深く感謝を申し上げます。研究報告も3回目となりました。このデータが皆さんの乾癬治療のお役に立つことができましたら幸いです。

年1回の継続調査(アンケート)にご協力ください

本研究では年に1回、患者さんを対象に継続調査(アンケート)を実施しています。現在の乾癬の病状や治療についてお聞かせください。結果はまた来年ご報告します。

乾癬の病型(タイプ)

全体 2,065 名

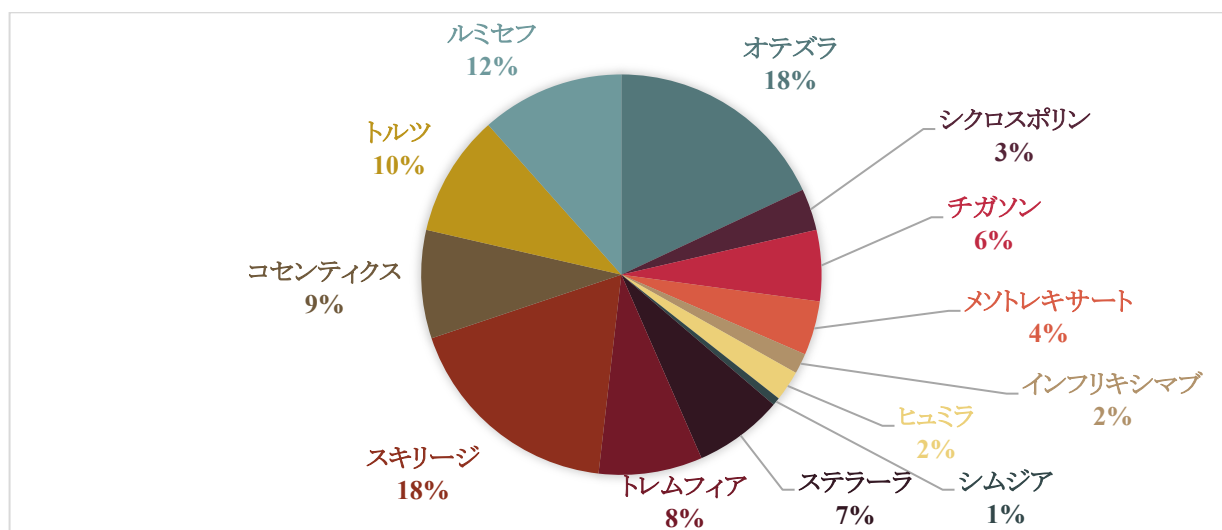


平均年齢は 60 歳、男女の比率は 2:1 (膿疱性乾癬では男女比 1:1) でした。

関節炎の病型は末梢関節炎(指などの関節が腫れ、進行すると変形が残る)が 82%と多く、指炎(指がソーセージのように腫れる)31%、付着部炎(アキレス腱や足底、膝の内外側などが腫れる)23%、体軸病変(脊椎や仙骨関節の痛み、進行すると変形が残る)15%でした。

現在の乾癬の全身治療(尋常性乾癬)

全体 1,080 名

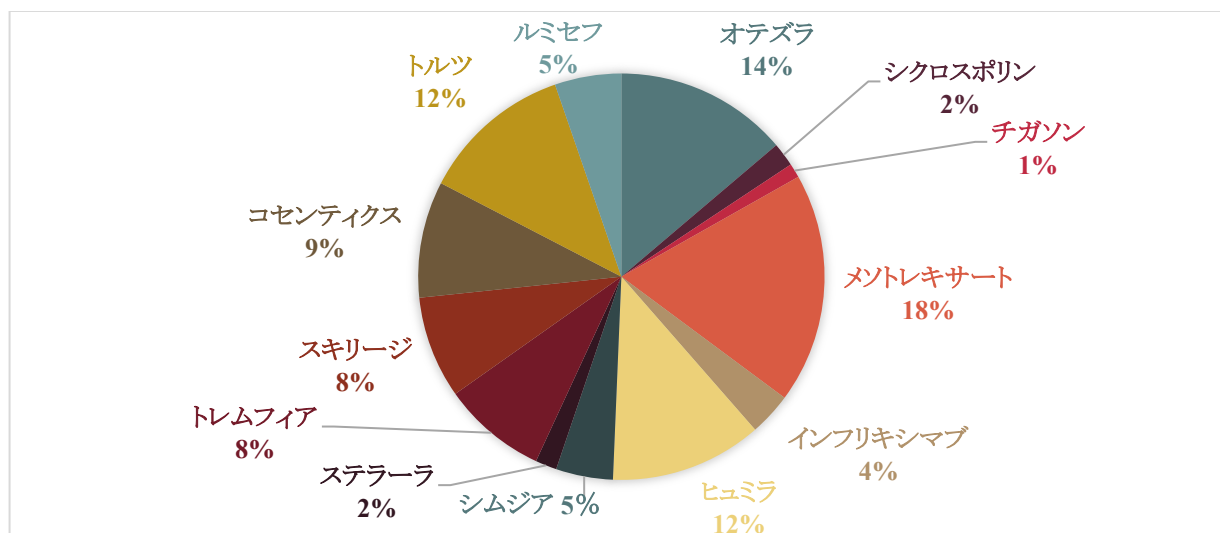


乾癬の全身治療(内服・生物学的製剤)を行っている方は 1,676 名でした。

尋常性乾癬では内服薬のオテズラ、生物学的製剤のスキリージ(IL-23 阻害薬)、トルツとルミセフ(ともに IL-17 阻害薬)が多く使用されていました。昨年よりステラーラ(IL-12/23 阻害薬)が減り、スキリージが増えていました。

現在の乾癬の全身治療(乾癬性関節炎)

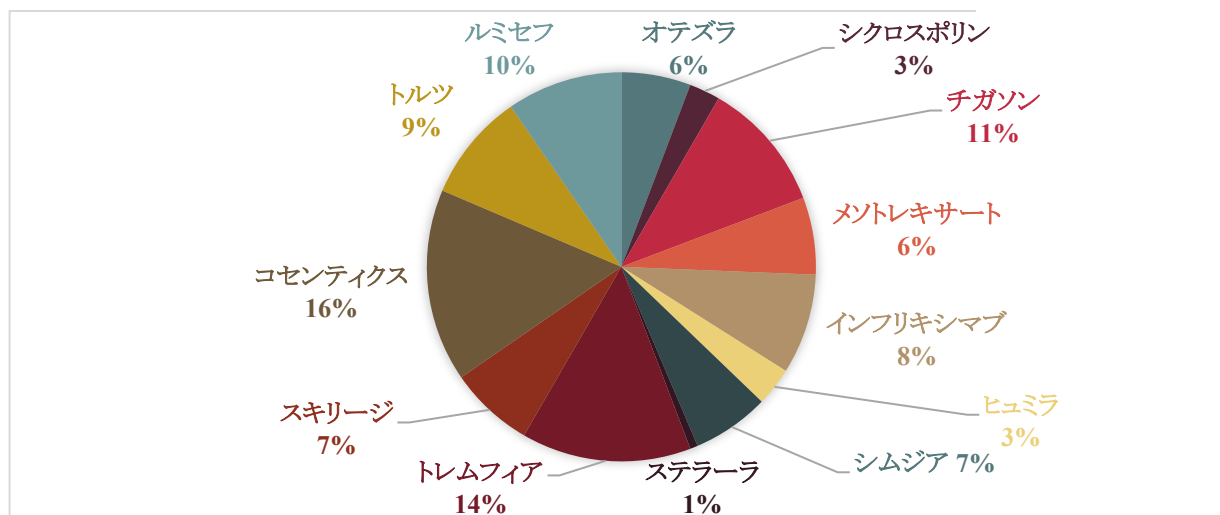
全体 462 名



乾癬性関節炎では内服薬のオテズラ、メソトレキサート、生物学的製剤のヒュミラ (TNF α 阻害薬)、トルツ (IL-17 阻害薬) が多く使用されていました。昨年より生物学的製剤のシムジア (TNF α 阻害薬) の使用が増えていました。クラス別に見ると IL-17 阻害薬が最も多く使用されていました。今年、乾癬性関節炎に内服薬のリンヴォック (JAK 阻害薬) が発売されました。来年の追跡調査ではその使用状況が明らかになると思います。

現在の乾癬の全身治療(膿疱性乾癬)

全体 134 名



膿疱性乾癬では内服薬のチガソン、生物学的製剤のトレムフィア (IL-23 阻害薬)、コセンティクスとルミセフ (ともに IL-17 阻害薬) が多く使用されていました。昨年より生物学的製剤のインフリキシマブ (先発名レミケード) (TNF α 阻害薬) が減って同じクラスのシムジアの使用が増えていました。

皆さんはお酒、タバコを嗜まれますか？ 昨年の調査では、習慣的に飲酒している方は男性で 52%、女性で 22%（日本人平均は男性 33%、女性 9%*）、喫煙している方は男性で 40%、女性で 19%（日本人平均は男性 27%、女性 8%*）と、お酒もタバコも好きな人が多いという結果になりました。喫煙は乾癬の発症や治療の抵抗性に関連していると言われています。過度の飲酒は肝障害を引き起こし、治療の選択肢が狭まることがあります。乾癬治療のため、健康のために禁煙・節酒をお勧めします。 （*2019 年国民健康・栄養調査より）

[illegible]

研究会の活動は、日本乾癬学会や複数の製薬会社からの寄付によって運営されています。病型別に使用者が多い薬剤を紹介しましたが、特定の薬剤の使用を促すものではありません。

作成者: NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会理事 鶴田紀子(北九州市立八幡病院)